

修士論文（要旨）

2016年7月

「異文化適応」をめぐる中国帰国者三世・四世の教育
課題

指導 阿部温子 教授

国際学研究科

国際協力専攻

214J1952

胡媛

Master's Thesis (Abstract)

July 2016

Educational Challenges Faced by 3rd and 4th Generation
Returnees from China in the Area of Cultural Adaptation

Yuan Hu

214J1952

Master's Program in International Cooperation

Graduate School of International Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Atsuko Abe

目次

1. 序論	1
1.1 本論の背景と問題の所在	1
1.2 先行研究	3
1.2.1 中国帰国者三世・四世およびマージナル・マンとは	3
1.2.2 異文化適応について	5
1.2.3 ナショナル・アイデンティティとは	5
1.3 研究方法	6
1.4 本論文の構成	7
2. 母語と第二言語から見る教育課題	8
2.1 言語問題の概況	8
2.2 中国語を母語とする子の場合—日本語教育	10
2.3 日本語を母語とする子の場合—中国語教育	14
2.4 バイリンガル教育の捉え方	18
3. 文化間の移動から生まれる葛藤	22
3.1 中国帰国者三世・四世のアイデンティティに関する事例研究	22
3.1.1 行き来するサバイバル・ストラテジーを採用するケース	26
3.1.2 一方との関わりが強いケース	29
3.1.3 まとめと考察	30
3.2 進学・進路における課題—高校進学に着目して	32
3.2.1 乗り越え困難なハードル	32
3.2.2 自治体の公立高校入試特別措置および進学・進路ガイダンスにつ いて	33
4. 結論と今後の課題	42

参考文献

要旨

中国帰国者とは、1972年日中国交正常化以降、日本へ永住（帰国）するようになった中国残留日本人とその家族である。現在、一時的に帰国する人を含めると約3万人である（厚生労働省、2015¹）。彼らは、血統からすれば日本と関係があるが、文化といえれば非常に複雑である。したがって、中国帰国者は、日本人とも中国人ともみずから語ることができず、新しいマイノリティグループとして登場している。中国帰国者三世・四世は、つまり上記の中国帰国者一世の孫・曾孫のことを指す。本論は、その三世・四世の異文化適応をめぐる言語問題、アイデンティティ問題および進学・進路問題に着目する。

本論の目的は三つある。まず、中国帰国者三世・四世の現状について概観し、彼らの母語（第一言語）によって、それぞれ第二言語の習得状況について考察を行う。とりわけこれまでの各自治体やNGOが開設した教室の実例をもとに、第二言語習得の動機および現状、第二言語を支援する事業の意義について検討する。なお、バイリンガル教育の立場から、母語と第二言語のバランスをとるための、親と子供自身の関心度および工夫に焦点をあてる。次に、中国帰国者三世・四世を、日中間で行き来するサバイバル・ストラテジーを採用する帰国児童生徒と日本で定住するが、一時的な移動がある児童生徒を二分し、それぞれの動機と現状について考察し、子供たちのナショナル・アイデンティティ、文化的アイデンティティおよび言語的アイデンティティの形成に与える影響を検討したい。また、中国帰国者三世・四世の児童生徒の異文化適応をめぐり、子どもたちが直面している進学・進路に関する諸問題についてさらに認識を試みる。最後に、事例研究の心得を手かりに、今後の課題として、彼らを支える視点から異文化適応支援する事業および政策について展望する。

本論の構成は以下のようなものである。第一章は、中国帰国児童生徒が異文化適応を目指しながらも、実際の教育現場で遭遇している問題を指摘し、その背景および本論の目的を紹介する。また、中国帰国者三世・四世および異文化適応に関連する諸概念について説明し、本論が採用する研究方法と本論文の構成についても説明する。

第二章は、先行研究を参考に、中国帰国者三世・四世の児童生徒について概観する。次

¹ <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/bunya/engo/seido02/kojitoukei.html>

に、中国語を母語（第一言語、以下同）としての子および日本語を母語としての子を二分し、中国帰国者の子供たちを支える政府の施策および NGO の具体的な事業を通じ、子供たちそれぞれ第二言語習得の原因と現状について考察する。また、親子のコミュニケーションや、子供教育に対しての親たちの関心度や、家庭と学校からのサポートなどの側面から、バイリンガル教育の可能性の捉え方についても検討する。

第三章の前半において、中国帰国者三世・四世を、移動方式および移動頻率によって二分し、具体的なケースを通じ、それぞれの移動動機、異文化間の移動とアイデンティティの形成の関係について検討する。まず、行き来する移動方式を採用する中国帰国者三世・四世に対し、その国籍および在留資格を考察し、またこの国籍あるいは在留資格により、彼らが行き来する理由と現状を明らかにする。その上、一時的な移動をする帰国児童生徒の移動動機および現状にも触れ、これらの日中文化間の移動の概況を知る上に分析し、その移動自身が帰国児童生徒のアイデンティティにもたらす影響を把握する。

第三章の後半において、中国帰国者三世・四世の高校進学に着目し、彼らの進学難の問題を指摘する。また、進学難問題の改善策として、都道府県における高校入試特別措置、特別入学枠および進学ガイダンスが行われている。このような特別策の内容について簡単に説明する。

第四章は、以上の内容をまとめ、最終的に結論を出す。そして、未解決の課題や今後の展望についても簡単に論述する。

参考文献

蘭信三「中国帰国者とは誰なのか、彼らをどう捉えたらよいのか」 蘭信三編『「中国帰国者」の生活世界』行路社 (2000)

石井准 『アイデンティティ・ゲームー存在証明の社会学』 新評論 (1992)

池上摩希子「「中国帰国生徒」に対する日本語教育の役割と課題ー第二言語教育としての日本語教育の視点からー」『日本語教育83号』 日本語教育学会 (1994)

池上摩希子 「児童生徒に対する日本語教育の課題・再検討ー研究ノートー」 『中国帰国者定着促進センター紀要』第6号 (1998)

猪股祐介「満州農業移民から中国残留日本人へ」 蘭信三編『中国残留日本人という経験ー「満州」と日本を問い続けて』 勉誠出版 (2009)

江淵一公 『異文化間教育学序説』九州大学出版会 (1994)

江淵一公『異文化間教育』玉川大学出版部 (1997)

大久保明男「アイデンティティ・クライシスを越えてー『中国日裔青年』というアイデンティティをもとめてー」 蘭信三編『「中国帰国者」の生活世界』行路社 (2000)

太田晴雄「日本語教育と母語教育ーニューカマーの外国人の子どもの教育課題」 宮島喬・梶田孝道編『外国人労働者から市民へー地域社会の視点と課題から』 有斐閣 (1996)

太田晴雄「教育達成における日本語と母語ー日本語至上主義の批判的検討」 宮島喬・加納弘勝編『国際社会② 変容する日本社会と文化』東京大学出版会 (2002)

岡堂哲雄編『社会心理用語事典』至文堂 (1987)

鍛冶致「中国帰国生徒と高校進学ー言語・文化・民族・階級ー」 蘭信三編『「中国帰国者」の生活世界』行路社 (2000)

川村千鶴子「移民政策へのアプローチ なぜライフサイクルなのか」 川村千鶴子、近藤敦、中本博皓編『移民政策へのアプローチーライフサイクルと多文化共生ー』明石書店 (2009)

吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社 (2003)

キムリッカ・ウィル『多文化時代の市民権ーマイノリティの権利と自由主義ー』晃洋書房 (1998)